

公認大会のありかたを考えるワーキンググループ最終報告

2019年9月21日

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

公認大会のありかたを考えるワーキンググループ座長 奥田健史

公認大会の意義およびメリット・問題点

JOA が公認大会を定義している最大の理由（公認大会の意義）は、競技スポーツを全国的に管轄する法人として、競技規則に則っている大会を認定する仕組みが必要、というものである。

大会の運営者にとって、公認大会を開催するメリットとしては、以下の点が挙げられる。

- ・参加者が増える
- ・地元渉外時に社会的信用が高くなる
- ・賠償責任保険・傷害保険・救護セットの貸出等の運営サポートを受けられる

一方、以下のような問題点があることも事実である。

- ・会員支援金が高すぎる
- ・指導者資格を持った責任者・イベントアドバイザー（EA）の確保が困難
- ・申請の期限が早すぎる
- ・クラス分けが性別・年齢ごとに強制される
- ・リレーは公認の対象になっていない
- ・競技規則類の遵守が求められることが心理的ハードルとなっている

これらの問題点を緩和させることができれば公認大会が増える可能性は大いにある。

ただし、競技者にとっては、全日本大会のE権を取れる大会であり、参加の公平性・競技性の担保が必要である。また、JOA にとっては、公益社団法人としての社会的責任を果たすことが必要であることから、競技規則が守られなくなったり、JOA の信用を棄損するような緩和策の採用は避けなければならない。

公認大会のありかたに関する提案

当 WG では今後の公認大会のありかたについて以下の事項を提案する。

- ・「大会の質を上げる」「開催のハードルを下げる」の両面により改善する
- ・大会の質を上げるために、プランナー・競技責任者の教育のサポートを行うとともに、EA 資格保有者を増やす
- ・EA 資格保有者を増やすために、オンライン受講・テキスト外注・運営実績の認定等により、EA 講習の機会を増やす
- ・開催のハードルを下げるために、クラス分け・申請期限・コスト等について見直す
- ・インカレを公認大会の対象とする
- ・参加者・運営者の納得度が向上するように、公認料・会員支援金の制度を改正する

中間報告からの変更点

2019 年 2 月 23 日に開催された JOA 理事会にて本件に関する中間報告を行ったが、その後実施したパブリックコメントの結果および当 WG における議論に基づき、中間報告時点の内容から一部変更を行った。主な変更点は以下の通りである。

- ・「準拠大会」制度の導入を撤回
- ・インカレを公認大会の対象に追加
- ・公認大会について、全日本大会の予選に関する記載を追加（セレクションのヒート分け、インカレの特例適用、中学生以下の扱い）
- ・公認料・会員支援金の制度改正に関する提言を追加（料金体系の変更、会員支援の支援方法・支援金の再検討、学生からの競技者登録費の徴収）
- ・公認大会について、JOA によるイベントアドバイザー費用の負担に関する提言を追加
- ・公認大会について、仮申請からの重要事項の変更に関する記載を追加

新たな大会制度および指導者資格の改善案の詳細については別紙を参照のこと。

以 上